

令和元年度第4回放課後子どもプラン運営委員会会議録

日 時 10月23日(水) 午前10時00分から11時00分

場 所 801会議室

出席者 田中委員長、浦野副委員長、佐藤委員、多田委員、大久保委員、前田委員、増山委員

関生涯学習課長、菊池図書館長、林公民館長、松井庶務課長、浜田指導室長、鈴木児童青少年課長

富沢コーディネーター、伊藤コーディネーター、湊上コーディネーター、成田コーディネーター、古源コーディネーター、森田コーディネーター、西田コーディネーター、吉田コーディネーター、伊野コーディネーター

小堀生涯学習係長、鈴木生涯学習係主任

欠席者 石原委員、志波委員、並木委員、黒田委員、旭岡委員、富田子育て支援課長

傍聴者 1名

1 議 事

(1) 各小学校区の事業の進捗状況等について報告

【一小】来年度全日開催を目指して、PTAと調整を行っている。

【二小】協議会で学校から話があり、10月、11月の二か月限定で火曜日の校庭遊びを開催している。来年は週二回、校庭遊びを計画している。

【三小】室内開放では、工作の先生を招いて、申し込みをして、参加費を集める工作教室ではなく、居場所としての工作の教室(どんぐりを使ったり)を目指している。

【四小】運動会前、二週間は校庭遊びを自粛した。

【東小】二学期は、9月9日から順調に開催している。

【前原小】今年度から借りられるようになったかなでルームで、10月から水曜日の室内遊びの開催を始めた。子どもたちが自由に過ごせる場としている。

【本町小】校庭開放について、運動会前はお休みにしていた。10月28日から月曜日の開催を始め、週五日開催になる。

【緑小】学校の協力により、二学期から算数少人数教室も借りられるようになった。特別な配慮が必要な児童が参加する場合の安全管理員の加配分の予算について、他校区の余剰分で調整したい。

【南小】開放教室として、初めて事前申し込み無しの教室を開催し、15名の参加があった。今後は月に一回開催を進めていく。

【実行委員会】

① 第4回実行委員会

来年度の各校区事業計画を市に提出。各校区とも最大限実施可能な事業計画を策定。11月17日に開催される「子どもの権利に関する条例制定10周年記念市民団体協働事業」に放課後子ども教室実行委員会として参加予定。

② 第5回実行委員会

安全管理員のヘルプ体制づくり。安全管理員の配置人数の見直しなど。

(2) 令和2年度事業計画について

【事務局】資料に基づき、各校区別の令和2年度計画について説明。

【委員長】今年度と比べてどうか。

【事務局】実施回数が1,223回と平成30年度実績の879回からかなり増えている。

【コーディネーター】南小の実施回数を55回から70回へ訂正。

【コーディネーター】二小の校庭開放の安全管理員を228人ではなく304人に訂正。

【外部委員】この計画は各校週何日開催か。

【コーディネーター】一小は、図書室開放が月曜と金曜の第1、第3週。校庭開放が火曜と木曜。体育館が水曜と金曜の第2、第4週。第5金曜だけが保留。

【コーディネーター】二小は全日開催ができる回数。

【コーディネーター】三小は月・水・金とおやじの会が土曜日。

【コーディネーター】四小は、週三回。

【コーディネーター】東小は、水曜日以外の週四回。

【コーディネーター】前原小は、校庭遊びが月曜と金曜。室内遊びが水曜。クラフトと低学年図書を月曜、金曜のどちらかに同時開催なので、月、水、金の週三回。

【コーディネーター】本町小は全日開催。

【コーディネーター】緑小は、教室名が減っている。コミュニテースクールの実現に向けて、地域学校協働本部が組織され、学習支援を行う取り組みとして今まで放課後子ども教室として行っていた英語教室を来年度は地域未来塾として行う。月、水の週二回と土曜日。

【コーディネーター】南小は、週二回。今まで行っていいなかった4月と3月を教室開催する予定。

【コーディネーター】来年度週五日開催をもう1校目指すという話だったが、計画では何校も目指せる状態に感じる。1校というのはどういうふうに決まっていくのか。それともいくつもの学校で実現可能なら実施可能に努力してもらえるのか。

【内部委員】事務局から来年度週五日開催の追加は一校と話したが、状況に応じて増やしていきたいと考えている。

(3) その他

【内部委員】資料のコミュニテースクールの仕組みについて説明。

コミュニテースクール、イコール学校運営協議会制度を導入した学校ということになる。今年度緑小でこの研究をやっていただいて、次年度緑小でコミュニテースクールの本格実施となる。校長から学校運営の基本方針について、学校運営協議会に説明し、承認をいただく。また、教育活動についても説明し、意見をいただく。教育委員会に、学校運営協議会から学校運営に関する意見を述べるができる。あるいは、教職員の任用に関する意見をいただく。例えば道德の専門性の高い先生がうちの学校にほしいとか、学校運営上こういうふうな先生が必要だといったご意見を小金井市教育委員会にいただいて、それを東京都教育委員会に伝えることができる。

小金井市教育委員会の仕事は、協議会を設置し、委員を任命。適正な運営を確保する措置としては、ある程度予算をつける。というのがコミュニティースクールの仕組みです。

今でも、学校運営連絡会というものを全校でやっているの、それを学校運営協議会に移行することは難しくない。ただし、資料の裏面の地域学校協働と両輪で推進していくことが大事になる。小金井市は地域の力が大きいので、地域の方々と一緒に学校を盛り上げていく。そして今、副校長がいろいろなコーディネートをしているが、その負担を地域コーディネーターの方に担ってもらって、いろんな地域とのつながりをまとめてもらって、それを学校と一緒に進めてもらう。よってコミュニティースクールと地域学校協働活動が両輪となって今後進めていきたいというのが、小金井市教育委員会の考えである。

【事務局】地域学校協働活動の多様な活動の一つが放課後子ども教室であることを説明。

【外部委員】資料に地域連携担当教職員（仮称）とあるが、これは副校長以外の教員にそれとも別に事務職員を雇うものなのか。

【内部委員】今の想定では、教務部とか生活指導部と同じような感じで地域連携担当部というような形で、複数人で今いる先生が担当することをイメージしている。その研究を緑小でやっている。

【コーディネーター】学校運営協議会というところには、先生は入っていない。しかし家庭科のミシンのボランティアやスポーツテストのボランティアをお願いしたいときは、それぞれの担当の先生が地域のコーディネーターに直接お願いしている。

【内部委員】緑小の研究をもらってから、どうすべきか考えていきたい。

【委員長】学校の先生が忙しいといわれていて、こういうものを持ち込んで消化できるのか。

【内部委員】逆に忙しいから、地域の方に手伝ってもらいたい。

【外部委員】委員は何人くらいを考えているか。

【内部委員】10名以内くらい。

【外部委員】地域学校協働本部はどこで担当するか。

【内部委員】担当するのは生涯学習課。

【内部委員】地域学校協働活動は、地域の方の参画を得て、地域全体で子どもたちの学びや成長を支えるとともに、学校を核とした地域づくりを目指して、地域と学校が連携・協働して行う様々な活動で、その一つが、放課後子ども教室であったり、地域未来塾です。コーディネーターさんを中心として地域が学校を見守ってこうという社会教育体制の仕組みを目指します。

【外部委員】核になる司令塔はどこか。市役所の中に司令塔ができるのか。

【外部委員】他市の状況をいうと、行政がかかわっている市の方が少ないようである。地域学校協働本部で完結していて、地域コーディネーターが行政と学校といろいろなところと連携しながら行っているの、これを指導する司令塔のようなものは存在しないと感じている。他市の状況はそういう状況です。地域コーディネーターをやられている方は、私が知っている区だと、町会長がやられたりしていて、町の中

の人を動かせる方が地域コーディネーターになられていることが多い。

どちらかという行政から離れて地域が独立して学校にかかわりあっていく仕組みだと考えている。地域学校協働本部の中に健全育成の方もかかわっていくか。

【内部委員】法律でこの人を入れなさいというのはない。健全育成の方や地域の特性に応じた方に入ってもらいたい。

【外部委員】指定されていないのは、地域の特性を鑑みてゆるい設定になっているという解釈でいいのか。

【内部委員】地域の特性を活かすため。

【外部委員】地域学校協働本部と学校運営協議会との連携はどこでつながるのか。

【外部委員】地域学校協働本部をどこにどういう割合で置くのか。地域で手伝う側からみると同じ中学校区に二つの小学校があり、どういう単位で置こうとしているのか。

【委員長】この場でこの問題を詰める論議すべき場所なのか疑問である。再度つめた資料を出していただくなりしていただきたい。この問題は、正規な議題ではなく、新しい方針が生まれたという説明を受けたことに留めたい。

【事務局】前回の会議録の確認をお願いします。

【委員長】これをもって第4回の運営員会終了とする。